

はじめに

○日本国内では、アベノミクス以降、デフレ脱却、経済復興への期待が高まりつつあるが、今後も少子高齢化が進み、国内市場の縮小、経済のグローバル化の加速による国際競争の激化は避けられない状況である。特に、関西においては人口の転出超過が顕著で、東京への一極集中が進み、閉塞感が漂い、夢のない生活者が多い。このような状況を打破すべく、「主人公になれる街、関西」を目指すことを提言、現在と将来を見据えた取り組みにより、夢のある関西を実現し、関西を活性化させる一因としたい。

I. 関西経済の現状と課題

関西の域内総生産は、アジア諸国の一国分に匹敵する経済規模を誇っているが、成長率を比較すると、中国、韓国とも大きな差があり、経済成長鈍化傾向にある。国内の地域別で比較しても、関西の成長は鈍く、人口の移動に関しても、国内3大都市圏で、関西圏の継続した転出超過は目立っており、魅力のない地域になってしまっていると言える。

II. 関西活性化へ向けてあるべき姿 ～主人公になれる街、関西～

○関西活性化する為に、定量的な目標として、人口流入増加、流出減少の実現を目指すこととした。人口が多く流入することで、夢、魅力ある地域が実現、豊かな経済活動につながると考えたからだ。夢、魅力のある関西を感じることでできる「主人公になれる街」を目指す。
○物的な需要、欲求は既に満たされており、需要飽和といえる。「主人公」を生むためには、今までにない「自己実現」「幸せ」「満足・充実」といった更なる質的活性の実現が必要であり、そのためには「エネルギー」と「能力」の開発が必要である。
○「エネルギー」と「能力」の開発のため、課題である労働者の「夢を持ち、実現をする為の時間がない」問題、そして子どもたちの「自身の将来に対して夢をもてる教育ではない」を解決すべく、「時間創出」、「教育体系のシンカ」を提言する。

III. 提言 -時間創出-

1 長時間労働の現状

労働時間短縮は長年取り組まれ、各企業も残業などを減らす取り組みはあるが、その進捗は芳しくない。時短は単なるコスト削減策としてではなく、社会にとって大きな意義ある行動である。

2 「時間創出」に挑む各社の事例(フィールドワークより)

(1)伊藤忠商事 (2)スタートトゥデイ (3)サイボウズ

3・4 具体的提言とポイント

企業	長時間労働の撲滅(6時間労働制度導入など) ①経営層中心による強い推進 ②評価制度の確立 ③ポジティブなメッセージを積極発信する広報
個人・労働者	時間に対する意識の変革(創出した時間の有効活用) ①自分への投資 i)健康増進(十分な休息と規則正しい生活) ii)自己啓発・自己研鑽(語学・資格習得、読書、業務に関わる勉強など) iii)趣味活動(芸術活動、スポーツ活動) ②コミュニケーション活動 i)プライベートコミュニケーション(家族、友人など) ii)ビジネスコミュニケーション(社内、取引先) iii)リージョナルコミュニケーション(地域の自治会、近隣住民) ③青少年教育活動(未来を支えるための子どもたち)

5 社会メリット

①新産業や新文化の創造 ②新たな雇用の創出 ③より良い地域社会・生活環境の創造

6 「時間創出」まとめ

時短による「時間創出」実現は、企業にも個人にも、社会にも良い成果をもたらす。関西地域にとって「時間創出」が、残された活性化策の最有力候補のひとつであり、一極集中する首都圏よりも有利な通勤環境、および独自の価値基準や新規性と多様性を受容できるユニークな風土に関西は恵まれている。

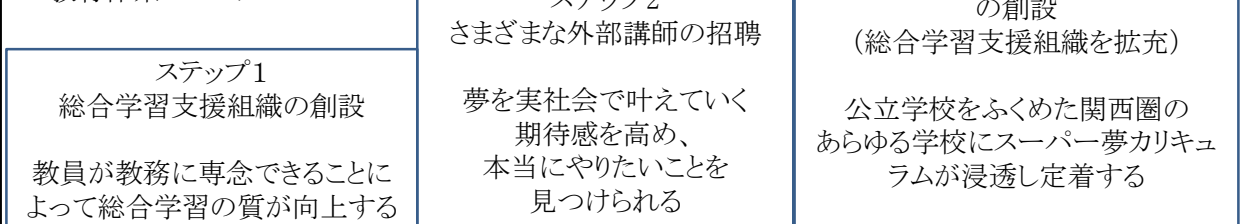
IV. 提言 -教育体系のシンカ-

1 具体的提言内容

子どもたちの将来にわたる質的活性化を実現するためには、その子どもたちが多くの時間を費やす「教育」を、多面的で夢が持てる体系へとシンカさせる必要があると我々は考え、以下に記載のことに目指す「スーパー夢カリキュラム」の幅広い定着を最終ゴールとする、次のステップからなる「教育体系のシンカ」を提言する。
＜スーパー夢カリキュラムが指すもの＞

- ・創造力・価値観の多様性に加え、「夢」を見つけることのできるカリキュラム
- ・21世紀型の答えの見えない課題にチャレンジできるカリキュラム

＜教育体系のシンカ＞



2 教育体系のシンカがもたらすもの

関西圏での教育体系のシンカが、夢を持ち希望に満ち溢れた子(個)をより多く生み出し、その子(個)それぞれが夢を持ちながら成長していくことで、将来の関西圏における起業の増加や多様な個を擁する関西企業の競争力向上につながっていく。つまり、本提言は、教育体系の改善だけにとどまらず、関西経済の活性化にも寄与するものである。

【主人公になれる街、関西】実現イメージ

